

東京大学およびワルシャワ大学間の学術交流実績 (2016年1月22日現在)

東京大学とワルシャワ大学間の学術交流は、実質的には1975年に開始され、同年よりまず留学生交換を行うことになった。東京大学は同年10月にヘンリク・リブシッツ氏（後に駐日ポーランド共和国大使となる）を大学推薦による特別研究留学生として招いたのを手始めに、毎年1～2名の留学生を受け入れたのに対し、ワルシャワ大学側も2名の東京大学人文科学研究科大学院生（長谷見一雄・現東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、および土谷直人・現東海大学教授）を留学生として受け入れ、さらに長期のスラヴ学研究員として森安達也・元東京大学教養学部教授を招いた。

こうした実績をもとに両大学間の交流をさらに発展させるべく、1978年4月に正式の学術交流協定締結の運びとなった（協定の内容については、添付された「東京大学およびワルシャワ大学間の学術交流の実施に関する合意書」の写しを参照）。以後、両大学間の学術交流は着実に発展し、東京大学側はワルシャワ大学から大学推薦による文部省奨学金留学生の制度を利用してほぼ毎年留学生を受け入れてきただけでなく、学術振興会の制度を利用した共同研究を行い、またヴィエスワフ・コタンスキ教授を外国人招聘研究者として招聘した。

その後も、ワルシャワ大学日本学科講師ベアタ・クビャク＝ホチ氏（1997年6月～12月、文学部、世話教官は沼野充義教授）、ワルシャワ大学言語学科助教授ロムアルド・フシチャ氏（1998年2月から1年間、大学院人文社会系研究科・文学部、世話教官は上野善道教授）が外国人研究員として、またワルシャワ大学東洋学研究所教授エヴァ・パワシュ＝ルトコフスカ氏（2001年9月～12月、社会科学研究所、世話教官は小森田秋夫教授）が客員教授として東京大学に滞在している。なおパワシュ＝ルトコフスカ教授は滞在中にポーランド・日本関係をめぐる研究報告・特別報告を本学研究者・学生のために社会科学研究所と文学部で行っている。また2006年6月にはワルシャワ大学講師・元駐日ポーランド大使のヘンリク・リブシッツ氏を招聘し、文学部で講演を行っていた（交流実施担当教員、沼野の主宰する「ポスト共産主義時代のロシア東欧文化研究会」の資金による招聘）。

また国際交流基金のフェローシップを受けたワルシャワ大学の日本研究者を、人文社会系研究科・文学部が受け入れているケースも少なくない。最近では、2004年3月からワルシャワ大学言語学科教授ロムアルド・フシチャ氏が外国人研究員として（日本研究フェロー、受入教員はスラヴ文学の沼野充義）、2009年10月から同大学大学院博士課程のイガ・ルトコフスカ氏が外国人研究生として（博士論文執筆フェロー、指導教員は文化資源学の古井戸秀夫教授）、2010年2月からはワルシャワ大学日本学科助教授カタジナ・スタレツカ＝シェフリンスカ氏が外国人研究員として（日本研究フェロー、受入教員は日本史の野島陽子教授）として、それぞれ大学院人文社会系研究科・文学部に1年間滞在して研究を行った。2012年12月にはワルシャワ大学日本学科長のエヴァ・パワシュ＝ルトコフスカ教授が国際交流基金日本研究フェローとして来日、文学部の外国人研究員として2013年6月末まで滞在し、2013年7月～8月にはロムアルド・フシチャ教授がやはり外国人研究員として滞在し、研究を行った（受入教員はどちらも沼野充義）。

ワルシャワ大学側では現在までに、上記2名の留学生以外に、西成彦（現在、立命館大学教授）、坂倉千鶴（現在、外務省語学研修所他講師）、西野常夫（現在、九州大学准教授）、崔建永（韓国からの留学生として、1993年3月に東京大学人文科学研究科で博士号を取得、現在、延世大学〔韓国〕准教授）、加藤有子（東京大学人文社会系研究科助教を経て、現在、名古屋外国語大学准教授）、金沢文緒（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了後、現在、岩手大学准教授）、仲津由希子、井上暁子（現在、熊本大学准教授）、松尾梨沙（現在、東京大学総合文化研究科博士課程在学）、西菜津子（現在、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程在学）の延14名（2度留学した者2名を含む）を留学生として受け入れた他、上記森安達也・元教養学部教授を初めとして、栗原成郎（元文学部教授）、直野敦（元教養学部教授）、島田陽（元教養学部教授）、吉上昭三（元教養学部教授）、沼野充義（現在、人文社会系研究科教授）、中井和夫（元総合文化研究科教授）、塚本明子（元教養学部教授）、西中村浩（現在、総合文化研究科教授）、久木元滋昌（当時人文社会系研究科博士課程）、金沢美知子（現在、人文社会系研究科教授）、小椋彩（現在、人文社会系研究科研究員）、野町素己（現在、北海道大学准教授）、平野恵美子（現人文社会系研究科研究員）の計14名を長期研究員ないしは日本語科の客員講師として同大学に招いている。また1997年度には文学部研究生1名をポーランド語の夏季講習に受け入れた。今後も東京大学側から希望者があれば、ワルシャワ大学側は常時長期研究員および留学生を積極的に受け入れる態勢をとっている。

学術交流の窓口となっているのは、ワルシャワ大学側は東洋学研究所日本韓国学科、東京大学側は大学院人文社会系研究科・文学部のスラヴ語スラヴ文学研究室・現代文芸論研究室であり、東京大学側の実施担当者は沼野充義である。現時点でのワルシャワ大学側の実施責任者は、同大学日本語セクションの主任教授アグニェシカ・コズィラ博士である。東京大学の側では、ロシア東欧研究者の連絡調整グループである東京大学ロシア東欧研究連絡委員会が中心となって、特にポーランド研究に関わる教官・これまでワルシャワ大学に長期滞在したことのある教官複数名が必要に応じて随時連絡を取り合い、合議しながら、交流を進める態勢を取っている。

こうして両大学間の交流は全学的に着実に進展を見て、大きな成果をあげてきた。

両大学の交流史にとって特に慶賀すべき出来事は、ワルシャワ大学から東京大学への最初の留学生であったヘンリク・リプシツ氏が駐日ポーランド大使に就任されたことである（在任期間1992-1996年）。これをきっかけに、大使となったリプシツ氏を迎えて1992年5月に東京大学教養学部で講演会が行われ、教養学部長を初めとする多くの出席者が大使の絶妙の日本語と豊かな学識に触れることができた。また、両大学の交流の推進にあたって長年東京大学側で世話役をつとめた吉上昭三・本学元教授（1996年逝去）が、ポーランドとの学術文化交流への多大な功績を認められ、1994年にポーランド政府から叙勲されたのも、両大学の交流史の中でも記念すべき一こまと言えよう。また現在の交流実施担当者である沼野充義も、2003年にポーランド政府より文化功労賞を授与された。

また協定のワルシャワ大学側担当窓口として長年交流に尽力してきた同大学東洋学研究所日本韓国学科は、日本研究・日本語教育の功績を認められ、平成14年度国際交流基金奨励賞を受賞し

た。その授賞式のため来日された同学科長ミコワイ・メラノヴィッチ教授を迎えて本学文学部においても懇談会が催され（2002年10月4日）、交流の一層の発展へ向けて互いの意思を確認することができた。また日本学科長エヴァ・パワシュ＝ルトコフスカ教授は、2011年6月14日と2013年6月14日の二度にわたって文学部を来訪して特別講義を行ない、関係者と学術交流のいっそうの発展に向けて懇談の場を持った。それに対して、沼野充義は2014年10月に第8回ワルシャワ大学日本文化学会に招待され、10月28日にワルシャワ大学において基調講演を行った。

また2012年5月7日には、ワルシャワ大学日本学科出身・元講師で、その後駐日ポーランド大使に就任したヤドヴィガ・ロドヴィッチ＝チェホフスカ氏を迎えて、「創作能 調律師—ショパンの能」の記録映画の上映と特別講演会を行った。2016年2月2日には、ワルシャワ大学教授・日本学科長のアグニェシカ・コズィラ博士を招いて、東京大学文学部において特別講演「ワルシャワ大学における日本学研究的な新しい傾向」を行っていただく予定になっている。

この交流協定に基づいてポーランドから受け入れた過去の留学生たちは、2008年から2012年まで駐日ポーランド大使を務め、日本・ポーランドの学術文化交流発展に大きな貢献をしたヤドヴィガ・ロドヴィチ氏（1978年～80年に留学。大使自身、日本演劇の研究者でもある）や、ワルシャワ大学日本学科長を2006年から2012年まで務めたエヴァ・パワシュ＝ルトコフスカ博士（1983年～85年東京大学留学）を初めとして、日本・ポーランド間の学術・文化・実務など、様々な面での交流の第一線で活躍している。また日本から派遣された留学生・研究員の多くは、現在日本の大学で教職にあって、日本におけるポーランド・スラヴ語学文学研究の中核をなしている。

ワルシャワ大学からの留学生一覧

東京大学がワルシャワ大学との学術交流協定に基づき、文部省／文部科学省の「大学推薦による国費外国人留学生」制度を利用してワルシャワ大学より招いた留学生は、以下の通りである（ただし、1977年以前の来日者は、正式の学術交流協定締結以前に受け入れられた留学生）。

Henryk Lipszyc (1975.10～1977.3) 比較文学、Hanna Zamyłka (1976.10～1978.3) 国文学、Wanda Anasz (1977.10～1979.3) 社会学、Jadwiga Rodowicz (1978.10～1980.3) 比較文学、Marcin Holda (1978.10～1980.3) 国文学、Marek Iwanowski (1979.1～1980.3) 言語学、Krzysztof Strebeyko (1979.10～1981.3) 工学、Ewa Busz (1980.10～1982.3) 比較文学、Zbigniew Kielnowski (1981.10～1983.3) 国文学、Beata Kubiak (1982.10～1984.3) 歴史学、Ewa Pałasz-Rutkowska (1983.10～1985.3) 歴史学、Bogusław Pindur (1984.10～1986.3) 比較文学、Renata Sowińska (1985.10～1992.3) 地域文化、Anna Michalska (1986.10～1991.3) 比較文学、Anna Michalska (1986.10～1991.3) 比較文学、Beata Wilk (1989.10～1993.3) 文化人類学、Tomasz Kot (1991.1～1993.3) 国史学、Marzena Lichwa (1992.1～1993.3) 比較文化、Milena Kosińska (1993.1～) 国史学、Katarzyna Starecka (Szeffińska) (1993.1～1994.3) 地域文化、Joanna Prus (1994.2～1995.3) 表象文化論、Anna Sambierska (1995.1～1996.3) 表象文化論、Marta Trojanowska (1996.1～1997.3) 表象文化論、Toko Anna Okazaki-Pindur (1997.10～1999.3) 言語情報科学、Marek

Sargalski (1998.10 ~) 言語情報科学、Marek Kaczmarz (1999.10 ~ 2001.3) 宗教学、Michał Baniewicz (2000.10 ~ 2002.3) 日本文学、Jan Krzysztof Filipek (2001.10 ~ 2003.3) 日本文学・比較文学、Zofia Stankiewicz (2003.10 ~) 日本語学、Eliza Klonowska (2004.10 ~ 2006.3) 日本語学、Beata Kowalczyk (2005.10 ~ 2009.3) 現代文芸論、Małgorzata Szmidt (2006.10 ~ 2008.3) 日本史学、Katarzyna Lamparska (2007.10 ~ 2009.3) 現代文芸論、Barbara Zaremba (2009.10 ~ 2011.3) 現代文芸論、Maja Lenczowska (2010.10 ~ 2012.3)、Katarzyna Sulek (2011.10 ~ 2013.3) 国文学、Elzbieta Korona (2014.10 ~) 現代文芸論、Martyna Ambrożak (2015.10 ~) 現代文芸論

東京大学からワルシャワ大学に招かれた留学生・長期研究員一覧

ワルシャワ大学が東京大学との学術交流協定に基づき、これまでに東京大学側から招いた留学生・長期研究員は以下の通りである（ただし1978年の交流協定の正式調印以前に招かれた者若干を含む）。

留学生

東京大学からの留学生の派遣に際しては、条件は年度によって異なるが、ワルシャワ大学の側から、学費免除、奨学金の支給、住居（学生寮）の提供、などの形での援助を受けている。

長谷見 一雄 (1977.5 ~ 1979.5)、土谷 直人 (1977.5 ~ 1979.5)、西 成彦 (1979.10 ~ 1981.9)、坂倉 千鶴 (1980.10 ~ 1982.9)、西野 常夫 (1986.5 ~ 1989.6)、崔 建永 (1992.10 ~ 1995.9)、加藤 有子 (2000.7 ~ 2001.9)、金沢 文緒 (2000.10 ~ 2001.9)、仲津 由希子 (2002.9 ~ 2004.9)、加藤 有子 (再度) (2004.7 ~ 2006.6)、井上 暁子 (2006.9 ~ 2007.8)、松尾 梨沙 (2010.7 ~ 2011.6)、松尾 梨沙 (再度) (2012.10 ~ 2013.10)、西 菜津子 (2014.7 ~ 2015.8)

長期研究員・客員講師

ワルシャワ大学から長期研究員として招かれた者は、ワルシャワ大学で各自の専門分野の研究に従事するかたわら、同大学東洋学研究所の客員講師における日本語教育・日本教育に協力して給与および無料の住居の提供を受ける、というのがこれまでの基本的な待遇になっている。なお派遣に際しては、国際交流基金ないしワルシャワ大学日文学科が運営する研究基金から往復旅費の助成を受けてきた。

森安 達也 (1975.10 ~ 1976.9)、栗原 成郎 (1976.10 ~ 1977.9)、直野 敦 (1977.10 ~ 1978.9)、島田 陽 (1978.10 ~ 1979.9)、吉上 昭三 (1980.10 ~ 1982.9)、沼野 充義 (1987.10 ~ 1988.9)、中井 和夫 (1989.10 ~ 1999.9)、塚本 明子 (1991.10 ~ 1992.9)、西中村 浩 (1995.10 ~ 1996.9)、久木元 滋昌 (1998.10 ~ 2000.9)、金沢 美知子 (2000.10 ~ 2001.8)、小椋 彩 (2001.10 ~ 2002.8)、野町 素己 (2003.10 ~ 2005.8)、平野 恵美子 (2008.10 ~ 2009.9)

文責 沼野充義（交流実施担者・人文社会系研究科／文学部）